

原 著

当院看護師における栄養に関する意識と栄養基準値把握の実態

糸魚川総合病院、栄養科；管理栄養士

榎本 裕介

目的：食種や食形態、補助食品の追加等、患者を取り巻く給食オーダーは個別化・多様化の一途をたどっているが、当院では看護師からオーダー変更が提案されることも少なくない。看護師が栄養管理について、どのような認識を持っているのかを把握することを目的として、調査を行った。

方法：看護師を対象としてアンケート調査を行った。栄養に関する注目度、栄養状態の指標とする項目、常食の栄養基準値について回答を求め、結果を検討した。

結果：対象集団の約75%について、栄養への注目度が高いとの回答が得られた。栄養状態の指標とする項目としては、『食事摂取状況』との回答が最も多かった。一方で栄養基準値の把握については特に蛋白質・水分において、基準値よりも低い値と認識している回答が得られた。

結論：栄養に関する注目度を日々の業務へと有効に繋げていくためには、運用されている給食オーダーについて基礎的な部分から啓蒙し、院内での共通認識を高めていく姿勢が重要と思われる。

キーワード：栄養に関する意識、栄養基準値、看護師、管理栄養士

緒 言

入院基本料に栄養管理実施加算が包括されたことは、看護部との連携が一層求められていることを示唆している。当院においては入院患者の約7割が経口栄養、約1割が経腸栄養、約2割が経静脈栄養となっているが、現在運用中の栄養管理計画書の評価に準ずると、経口栄養の中・高リスク患者は全体の約20%の割合を占めており、軽視することは出来ない。

経口栄養は患者個々の食種や特別指示オーダーの多様化に加え、食事摂取状況を把握しなければならないことが給与栄養量を複雑にさせているが、当院では患者の食事変更が看護師から提案されることも少なくない。

そこで本調査では、当院看護師が栄養管理についてどのような認識を持っているかを把握することを目的として実施した。

対 象 と 方 法

院内研修参加の看護師75名についてアンケート調査を実施し、最終には有効回答が得られた71名を対象とした(94.6%)。アンケートの主な内容は、栄養に関する注目度、栄養状態の指標とする項目、当院における常食の栄養基準値であった。また、栄養に関する注目度によって集団を2群に分類し、栄養基準値との関連について検討した。

結 果

栄養に関する注目度については、『とても注目している』が36名(50.7%)、『やや注目している』が17名(23.9%)であった(図1)。栄養状態の指標とする項目については、『食事摂取状況』が最も多く、次いで『臨床検査値』、『身体計測値』という回答が得られた(図2)。

常食の栄養基準値1800Kcal、蛋白質69g、水分1600mlに対して、全群で1717.0±218.7Kcal、蛋白質56.9±18.1g、水分497.1±300.5mlと、基準値よりも低い値として認識されていた(図3~5)。

栄養に関する注目度について『とても注目している』『やや注目している』を高群、『どちらとも言えない』『あまり注目していない』『全く注目していない』を低群として、2群を回答で得られた栄養基準値と比較したところ、エネルギーおよび水分については高群、低群で有意差は認められなかった。蛋白質については、高群が低群より有意に高い値との回答を示した(図6~8)。

考 察

看護師の栄養への注目度は高いものの、栄養基準値の把握が十分であるとは言えない結果であった。看護師からの提案で、食種の変更や補助食品の追加オーダーが発生するケースについては、給与栄養量が正しく認識されているかを注視していく必要が考えられる。管理栄養士・看護師間で認識の違いがあることは、患者にとって不利益となる可能性がある。本調査においてエネルギーの栄養基準値については、ある程度認識されているという結果が示されたものの、蛋白質・水分については、今後啓蒙していくべき課題として上げられた。

蛋白質は栄養への注目度との関連が示唆されたが、

実際には『低栄養＝蛋白質の追加』といった意図を感じる給食オーダーも多い。確かに必要とされる蛋白質が不足であれば、栄養改善には停滞が生じるが、逆に過剰であれば腎機能に悪影響をもたらす。当院には腎疾患以外に高齢に伴う腎機能低下の患者も多く、治療方針や病態経過に合わせた総合的な検討が必要である。また、水分についても認識の違いを感じた。栄養基準値の水分は『献立の食材・調理方法を加味したすべての水分量』としているが、看護師の平均回答は500 ml 前後であり、『飲み物、汁物等の純粋な見た目の水分量』として認識されているようであった。水分は循環器疾患において、特に注意すべき項目である。加えて、主食・副食について、それぞれ摂取量が5割であった場合の給与栄養量についても質問したが、得られた回答は現実とは大きくかけ離れた値であった。

これらのことから、個別化・多様化する給食オーダーに対する正確な給与栄養量の算出は、あくまでも管理栄養士の職域であると感じる。しかし現実的には入院患者すべての状態を管理栄養士ではカバーしきれるものではなく、管理栄養士・看護師の連携強化のためには、お互いの職域へのさらなる相互理解と共通認識が必要であろう。

結 語

栄養に関する啓蒙活動は、院内でもNSTや褥瘡といった分野に注目が集まっているが、現在運用されている給食オーダーや栄養基準値等の基礎的な部分から底上げしていくことも重要であり、管理栄養士がその中心的役割を担って行かなければならない。

文 献

1. 足立香代子、小山広人. NSTで使える栄養アセスメント&ケア. 第1版. 東京：学習研究社, 2007. 7-14項、115-6項.
2. 鈴木美穂他. 看護師アンケート調査により患者の食事満足への課題 喫食率向上を目指して. 日本農村医学会雑誌 2008; 57(3): 320.
3. 池田陽子他. 終末期の患者ケアにおける食事の目

的と管理栄養士の役割、管理栄養士と看護師における見解の比較. 藤女子大学紀要第II部 2003; 41: 77-88.

4. 長谷川忍他. 低栄養患者に対する看護師の意識と介入行動の実際. 日本静脈経腸栄養学会機関誌 2008; 23(1): 51-8.
5. 山本裕子他. 受け持ち患者の栄養状態把握に関する看護師に対する意識調査. 日本農村医学会雑誌 2006; 55(3): 589.

英 文 抄 録

Original article

Questionnaire survey on nutrient value among our nurses

Itoigawa General Hospital, nutrient department, registered dietitian

Yusuke Enomoto

Objective: There were several meal changes insisted by nurses in our hospital. We investigated the nurse's attitude about nutrition.

Study design: We conducted questionnaire survey in nurses.

We demanded answers about an attention degree about nutrient, an index of nutritional status, and a nutrient value of food.

Results: About approximately 75% of nurses had an attention to nutrition.

The nutritional status was assessed on the basis of the condition of feeding condition. The nurse's standard values about nutrients were lower than those of management values, especially in protein and water.

Conclusion: We should educate the nutrient content of diet and communicate each other to establish the common recognition about meals.

Key words: consciousness about nutrient, nutrient reference value, nurse, dietitian

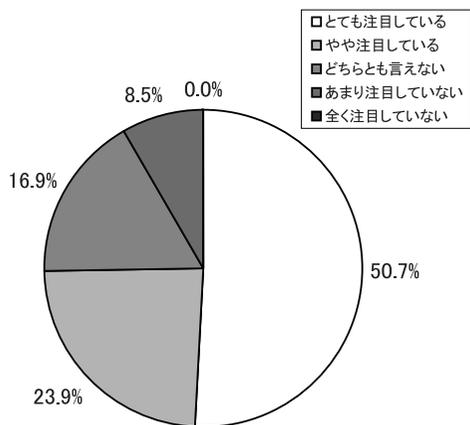


図1. 栄養に関する注目度の実態

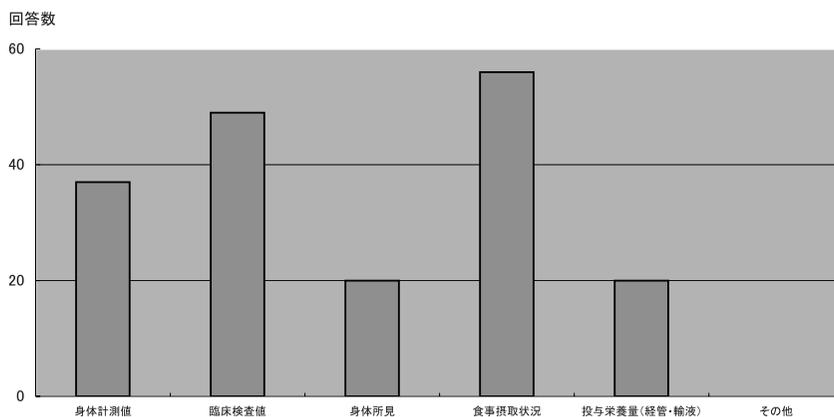


図2. 栄養状態の指標とする項目

患者の栄養状態把握のために、日常から用いている指標について回答を得た(複数回答)。

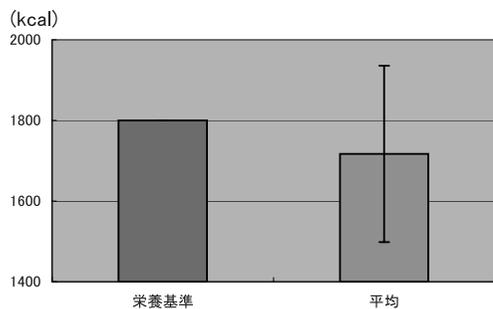


図3. 栄養基準値との比較：エネルギー量

- 1) 常食の栄養基準値について、実数での回答を依頼。
- 2) 左：栄養基準値、右：回答値の平均±標準偏差

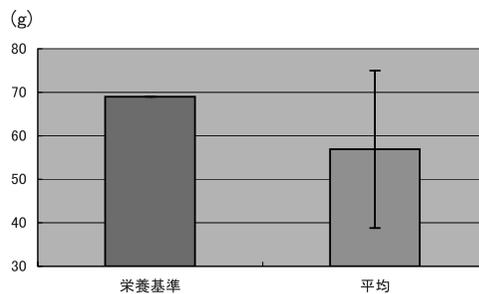


図4. 栄養基準値との比較：蛋白質量

- 1) 常食の栄養基準値について、実数での回答を依頼。
- 2) 左：栄養基準値、右：回答値の平均±標準偏差

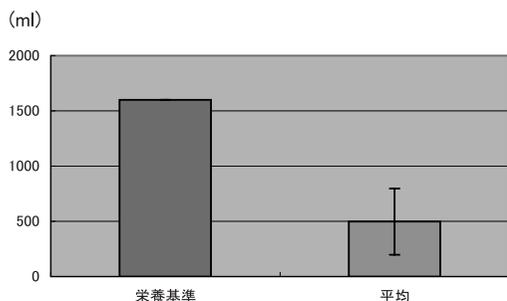


図5. 栄養基準値との比較：水分量

- 1) 常食の栄養基準値について、実数での回答を依頼。
- 2) 左：栄養基準値、右：回答値（平均±標準偏差）

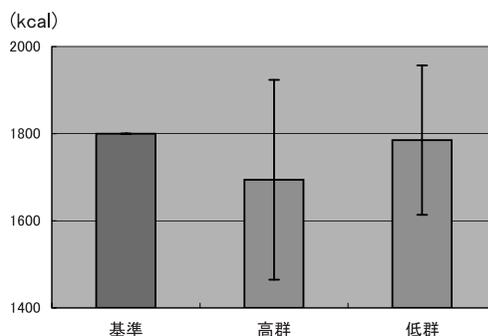


図6. 注目度（2群）における栄養基準値の比較：エネルギー量

- 1) 栄養に関する注目度で2群に分類。2群を Mann-WhitneyU 検定にて比較（； * $P < 0.05$ 、** $P < 0.01$ ）。
- 2) 左：栄養基準値、中：注目度高群の回答値（平均±標準偏差）、右：注目度低群の回答値（平均±標準偏差）

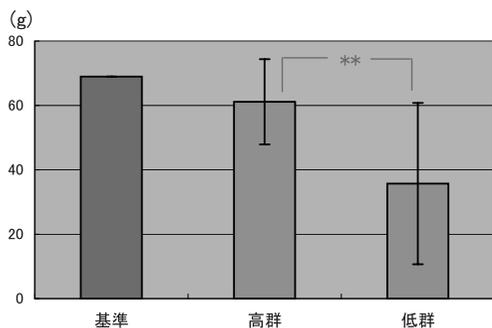


図7. 注目度（2群）における栄養基準値の比較：蛋白質量

- 1) 栄養に関する注目度で2群に分類。2群を Mann-WhitneyU 検定にて比較（； * $P < 0.05$ 、** $P < 0.01$ ）。
- 2) 左：栄養基準値、中：注目度高群の回答値（平均±標準偏差）、右：注目度低群の回答値（平均±標準偏差）

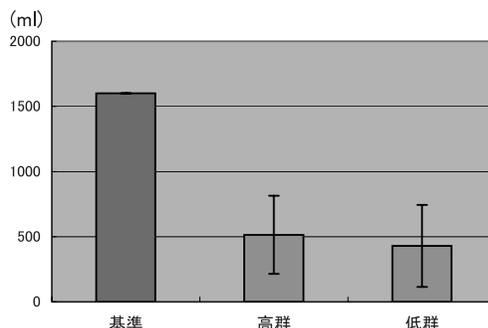


図8. 注目度（2群）における栄養基準値の比較：水分量

- 1) 栄養に関する注目度で2群に分類。2群を Mann-WhitneyU 検定にて比較（； * $P < 0.05$ 、** $P < 0.01$ ）。
- 2) 左：栄養基準値、中：注目度高群の回答値（平均±標準偏差）、右：注目度低群の回答値（平均±標準偏差）

(2013/11/15受付)